

公共施設等の社会インフラの再配置と今後の整備見通しについて

- ① 少子高齢化が更に進展し人口減少も予想される中、市街地が無秩序に拡散していく事（スプロール化）は、都市を維持するコストの増大を招き、持続可能な都市運営ができないと考える。これに対し、望ましい都市構造の方向として「集約型都市構造」への転換が「コンパクトシティ」という言葉で説明される事が多い。また、最近「小さな拠点」という考え方も示されている。

今後の都市構造の方向を示す以下の項目について、市の考え方を示されたい

(ア) スプロール化

(イ) コンパクトシティ

(ウ) 小さな拠点

- ② 現在の出雲市行財政改革の起点となったとも言える、「出雲市財政計画(平成 24 年 12 月)」及び「今後の公共施設のあり方について(平成 24 年 9 月)」では、市が保有する約 800 の公共施設について、「現在の施設をそのまま存続することは極めて困難」と結論づけている。

今後の公共施設は複合化・多機能化が重要、更に民と官が協働する方向も大切であり PFI を含め民間活力導入が必要と考える。

公共施設他、社会インフラ整備について、市の考えを示されたい

(ア)道路や橋梁についての維持管理費、補修・架替え等の費用についての検討はされているのか

(イ)複合施設、多機能施設、官民の協働という方向に対応する体制をどうとるのか

(ウ)廃止・統合の方針が示された施設や遊休地については、民間からの提案を募集してはどうか

(エ)統合の方針が示された、出雲体育館と平田体育館についてどのような検討がされているか

公共施設等の社会インフラの再配置と今後の整備見通しについて

湯浅啓史

おはようございます。

議席番号3番、政雲クラブの湯浅啓史です。どうぞよろしくお願いいたします。

今回は、テーマを一つに絞り、公共施設等の社会インフラの再配置と今後の整備見通しについて質問をさせていただきます。前半は、その前提となる考え方について、後半は具体的な状況や進め方についての質問をいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

地方創生ということで大変注目を集めました出雲市まち・ひと・しごと創生総合戦略、人口ビジョン及び総合戦略ですが、6月議会に骨子案が、そして9月議会には素案が示され、多くの意見を集約しながら10月26日の公表に至りました。

策定途中の6月議会において、私は、人口ビジョンが指し示す将来のまちのあり方について質問をしたつもりです。今回も関連する事柄となりますが、より具体的に、より前向きに質問してみたいと考えています。

出雲版総合戦略については、6月の骨子案から追加された部分として、人口減少がもたらす問題という項目が追加をされています。第1章人口ビジョンの2の2、人口減少がもたらす問題、25ページから26ページの部分で追加されておりました。

この部分で、1. 財政への影響、2. 道路、下水道、公共施設等の維持管理費等への影響、3. 地域経済、地域コミュニティへの影響が考察されていました。

今ここで詳しくこの部分を引用はいたしません、今後急速に進展する人口、そして財政状況ともに右肩下がりの変化に対応しなくてはならないということが述べられているのだと、私は解釈しております。

そこで、今後の都市構造の方向を示すと言われる次の項目について、市の考えをお示ください。

まず初めは、スプロール化、次にコンパクトシティ、そして小さな拠点という言葉です。

少子高齢化がさらに進展し、人口減少を少しでも食い止める努力はされるとしても、その現象は避けがたいと予想される中、市街地が無秩序に拡散していくこと、これをスプロール化というそうですけれども、これは都市を維持するコストの増大を招き、持続可能な都市運営ができないと考えられています。

私は、出雲市においても、少なからずスプロール化が起きていると考えておりますが、市としてはどのように把握をされているのか、またスプロール化という言葉そのものをどう整理されているのか、合わせてお示しいただけたらと思います。

また、今後の望ましい都市構造の方向として、集約型都市構造への転換が、コンパクトシティという言葉で説明されることが多々あります。この言葉や考え方は決して新しいものではなく、1970年ごろからヨーロッパの諸問題を議論する中から出てきた言葉と理解しております。最近、国土交通省や経済産業省の各資料に数多く登場するようになり、今後のまちのあり方の方向性を示すものとして多用されていると理解しています。

例えば、いずれも昨年改定された法律ですが、「都市再生特別措置法」や「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」の中では、持続可能な集約型都市構造として、多極ネットワーク型コンパクトシティの実現がうたわれています。

また、同じく昨年公表されました国土のグランドデザイン2050においては、基本的な考え方として、コンパクトプラスネットワークという方向が示されています。各機能を一定のエリアに集約化、コンパクト化することが不可欠とうたわれております。

さらには、最近、小さな拠点という考え方も示されています。コンパクトシティや小さな拠点といった考え方、方向性について、市ではどのように整理をされているのか、端的にお答えください。

以上が、方向性や考え方についての質問です。

続いて、具体的なお尋ねをいたします。

現在の出雲市の行財政改革の起点となったと言える、出雲市財政計画、さらに続く今後の公共施設のあり方、いずれも平成24年(2012)に示されたものですが、この中で、市が保有する約800の公共施設について、「現在の施設をそのまま存続することは、極めて困難だ」と結論づけられています。現在、そのまま存続させることは困難なのは、いわゆる箱物ばかりでなく、道路や橋梁などの維持管理費も同様だと当然考えられます。

そこで、公共施設ほか社会インフラの整備について、市のお考えを示していただきたいと思います。

その一つは、道路や橋梁についての維持管理費、補修、かけ替え等の費用についての検討はされているのかどうかという問いです。

公共施設の大規模改修や建て替えについては、平成39年度(2027)からの5年間に、ピークを迎え、その額は約480億円、1年当たり約100億円を要するとの試算がされています。道路や橋梁、トンネル等についての維持管理費、補修、かけ替え等の費用は把握されているのでしょうか。

続いては、複合施設、多機能施設、官民の協働という方向に対応する体制をどうとるのかという問いです。

今後の公共施設は、複合化、多機能化が重要となり、さらに公と民間が協働する方向も大切であるはずです。PFI等の手法を含め、民間活力の導入が必要となる方向に進むものと思われる。

しかし、それを推進していくことは、多くの困難が予想されると考えます。なぜならば、複合化、多機能化に進むということは、行政組織の多くの部局が絡むことになるであろうし、また公と民間が協働するということになれば、それなりの組織が、体制が必要だと思われる。どのように進むことになるのか、市としてのお考えをお聞かせください。

続いては、廃止・統合の方針が示された施設や遊休地については、民間からの提案を募集してはどうかという提案です。

具体的な例としましては、統合の方針が示された、出雲体育館や平田体育館です。これらが統合され、別の場所に体育館が、もし建てられるのであれば、その跡地をどう活用されるのでしょうか。

また、遊休地ということで例を挙げますと、現在公用車駐車場として利用されている旧市庁舎跡、これは遊休地と言って差し支えないと思いますが、この土地をどう活用するのか。

ある面、行政とは異なる視点から、異なる発想からの提案が必要だと思われる。民間からの提案を募集されるお考えはないのか、お聞かせください。

最後に、先ほども触れましたが、統合の方針が示されました出雲体育館と平田体育館について、どのような検討がされているのかという問いです。

方針として、出雲体育館と平田体育館は統合し、新たに一つの体育館を建てるということが示されました。現在は、具体的な検討の過程さえ見えない状況です。これについては、検討過程の透明性を高め、誰もが納得する方法で決定しなければならないと考えております。現在、どのような検討がなされているのでしょうか。

以上、お答えいただきますよう、お願いいたします。

長岡秀人市長

おはようございます。

ただいまの湯浅議員さんの一般質問にお答えをしてみたいと思います。

公共施設等の社会インフラの再配置と今後の整備見通しについてのお尋ねでございます。それぞれご質問、ございましたけれども、最初のそれぞれの三つの言葉との考え方についてのお尋ねでございます。

最初に、スプロール化についてのお尋ねでございますが、先ほど、議員お話のように、市街地が無秩序に拡散していくことが、いわゆるスプロール化ということになるわけでございますけれども、この現象については、道路や下水道などの社会資本の整備費、あるいは維持管理費の増大を招き、さらに少子高齢化や人口減少が進行する今後の状況下において、都市の運営に大きな支障を招くおそれがあるということで、避けなければならない問題であると認識をしているところでございます。

このため、本市の都市計画マスタープランにおいては、土地利用の課題に無秩序な市街地の抑制というのを掲げております。

本市の市街地の状況については、市街地部やその周辺においては、都市計画用途地域を定め、土地区画整理事業や街路事業などを計画的に進めてきた結果、比較的良好な市街地の形成が進んできたと考えております。

また、都市計画用途地域の外側においては、既存集落周辺での住宅開発、あるいは幹線道路沿線での店舗建築等が進んできた箇所も多々見受けられる状況にあります。

今後、市街地内においては、必要な都市施設の整備に努め、都市計画用途地域の外側においては、農業振興地域整備計画に基づいて、保存すべき農地との土地利用調整を図るとともに、都市計画法による開発行為制度を適切に運用することによって、スプロール化の防止に努めてまいりたいと考えておるところでございます。

2点目のコンパクトシティの考え方について、先ほどもお話がございましたが、一般的には、コンパクトシティといえは、都市の中心部に行政、商業、住宅など、さまざまな都市機能を集中させた形態、またはその計画を指すと思っております。効率的で維持可能な持続可能な都市づくりの政策とされております。

従来、コンパクトシティについては、最も主要な拠点に一極集中させるというイメージが強かったようでございますけれども、近年では分散している市街地を、それぞれの拠点として生かしながら、相互に結びつけていくという、いわゆる多極ネットワーク型のコンパクトシティという考え方が打ち出されているところでございます。

出雲市においても、出雲未来図、あるいは都市計画マスタープランの中で、将来都市構造を示しておりますけれども、この中では、中核都市拠点、東部都市拠点、産業都市拠点、観光都市拠点を核とする都市構造として、それぞれ各拠点に都市機能を集積させていくという計画としております。

したがって、この4拠点を中心に、必要な都市機能を集中させ、効率的な都市づくりを進めていく考えでありまして、現状においても、都市機能の強化をそれぞれ進めている状況でございます。

このようなことから、本市においては、一極集中型ではなくて、多極ネットワーク型のコンパクトシティとして都市像を考えているところでございます。

次に、小さな拠点という考え方でございますが、本市の全体的な状況として、長い年月をかけてコミュニティが形成されてきたまちや集落が多数存在をしております。これらが地域の生活やまちづくりにとって大きな役割を担ってきたところでございます。

このうち人口減少や高齢化により、過疎化が進む中山間地域等の集落においては、日常生活に必要な商店やガソリンスタンド、また診療所等々、徐々に失われ、地域生活や経済が成立しなくなるおそれがございます。

このような問題への対策として、基幹となる集落に買い物や医療・介護、福祉などの機能を集約化し、さらに周辺に隣接する集落とのネットワークを持たせた「小さな拠点」をつくることとが上げられております。そしてこの拠点が生活サービスを維持するとともに、中山間地等の地域内交流や支え合いの場となり、また地域の活性化にもつながっていくと考えております。

本年10月に策定いたしました「出雲市版まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中でも、「中山間地域等における小さな拠点の形成」というのを位置づけているところでございます。

大きな2点目として、公共施設、社会インフラ整備についての考え方のお尋ねでございますが、最初に道路や橋梁についての維持管理費、補修、かけ替え等の費用についての検討状況はどうかというお尋ねでございます。

道路や橋梁の維持管理等については、日常の道路パトロールや各地区の土木委員さんからの報告により、適宜補修等を行うとともに、主要幹線道路や緊急性の高いものから順次計画的な修繕を行い、事業費の平準化に努めておるところでございます。

市道につきましては、昨年の道路法施行規則の改正を受けまして、全ての橋梁、トンネル等の重要な道路構造物について、5年に1回の定期点検による健全度の判定を行うことが義務化されました。昨年度から計画的に調査・点検を実施しているところでございます。

その結果に基づきまして、現在、県が開発中の維持管理システムを活用して、全ての橋梁やトンネルについての補修計画を策定し、年度別の経費を算出することにしていただいております。

市としては、今後、橋梁などの道路構造物が老朽化することを踏まえまして、点検・診断・措置・記録のメンテナンスサイクルを構築し、早期発見、早期補修の計画的な予防保全によりまして、それぞれの施設の長寿命化を図ることといただいております。

また、生活環境や経済活動の変化等により、道路交通量も変化いたします。道路の拡幅、あるいは歩道の整備、交差点の改良など、新たな道路新設や改良の必要も出てくることから、これらの経費も踏まえながら、安全で安心して暮らせるための社会基盤の整備に努めてまいりたいと考えておるところでございます。

次に、複合施設、多機能施設、官民の協働という方向に対応した体制についてのお尋ねでございます。

今後の施設整備にあたっては、施設建設や管理運営を効率的に行うため、施設の複合化、あるいは官民の協働など、さまざまな手法を検討していく必要があることは、先ほど議員申されたとおりであります。

その際には、それぞれの施設の要素を十分に把握し、無駄のない施設として整備していくことが肝要であると考えております。

そのためには、関連する関係する部署間での調整を行えるよう連携した取り組みを行うことになりますが、現状では、新たな組織を設置するということではなくて、それぞれの部署間での相互連携がとれるような体制を組みながら整備にあたっていくこととしているところであります。

廃止・統合の方針が示された施設や遊休地についての民間からの提案の募集についてのご提案でございますが、本年3月に示しました「出雲市公共施設のあり方指針」において、廃止、または使用中止、民間譲渡等の方針及び対象施設を示したところであります。

特に、廃止、または使用中止の対象施設は、老朽度や耐久性を鑑み、安全面での不安を考慮したうえでの取り組み方針としているところであります。

一方、施設廃止後の利活用の取り組みに関しては、周辺を含めた再開発が望ましい場所もあります。そういった場所においては、民間からの提案も含め、さまざまなアイデアを出しながら検討をしてみたいと考えております。

今後の施設整備にあたってのPFI方式の採用に関するご提案でございましたが、経費節減、あるいはサービス向上の観点から、有効な手法の一つであると考えております。PFI方式は、設計から建設、運営までを民間事業者から一括して調達することで、ライフサイクルコストの縮減を図り、事業効率を高めることができるとされております。

ただ、PFI方式の導入には相当な準備期間が必要でございます。また、ある程度の事業規模でなければ、導入のメリットが少ないとされております。費用対効果を勘案しながら検討していく必要があると考えておるところでございます。

最後に、統合の方針が示された出雲体育館と平田体育館についての今後の考え方についてのお尋ねでございますが、老朽化が進行し、早期の建て替えが必要とされる出雲体育館及び平田体育館については、平成24年(2012)11月に、出雲市スポーツ振興審議会から

「出雲市スポーツ振興ビジョン～今後のスポーツ施設整備のあり方について」という中で、「統合による大規模体育館の建設が望ましい」という答申を受け取っているところでございます。

一方、平成27年(2015)3月、「出雲市公共施設のあり方指針」では、廃止、または使用地位氏の対象施設として、この二つの体育館を上げているところでございます。

こういう中、市としての新体育館建設の基本的な方針案を取りまとめをするために、庁内の関係各部署が集まり、協議・検討を始めたところでございます。

また、庁内の検討と並行して、新たな出雲市スポーツ推進基本計画策定のために現在ご審議をいただいています出雲市スポーツ振興審議会においても、体育館の整備のあり方についてご意見をいただくこととしているところでございます。

いずれにしても、そうした準備をしながら、今後の方向づけをしっかりと示していきたいと考えているところでございます。

以上、答弁といたします。

湯浅啓史

スプロール化につきましては、出雲市としては、そういう認識はないのだという結論、お答えだったと思います。

ただ、無秩序であるか、そうでないかということは別にいたしまして、ある程度の拡散というのは起こっているのではないかということは、やはり肌で感じるところでありまして、この拡散というものが将来的に市の財政を圧迫し、市の運営を危うくするところが一番心配をされる所です。そういった意味合いも含めて、国もコンパクトシティというようなキーワードを出しながら、ある程度の集約といいますか集積を持った地域をつくっていこうという方針だと思います。

出雲市においては、先ほどご説明をいただきました四つの核を設けた。そこへの集積を進めながら、また小さな拠点というものを各地につくっていきながら、それをネットワーク化して今後のまちづくりに対応していくというお答えでしたと思います。

ですから、大まかには、国の考え方のコンパクトシティというものへ向かっていく方向と恐らく一にしているとお答えだったと思っております。

その中で、コンパクトシティ、小さな拠点への方向というのは、おおよそですが間違いがないというか、その方向であろうなということですがけれども、コンパクトシティという言葉の口にするとき、先ほど市長のほうからもありましたように、コンパクトシティとは排他的で過度な一極集中ではないということを肝に銘じなければならないということは、重々思っておかないといけないと思

いますが、ある程度の集積、やっぱり集中というものは、ある程度は必要だというふうに思っております。ある面、コンパクトシティの肝は集積というふうに言えると私は考えております。

高密度な人、物、情報の交流は、新たな価値創造のきっかけとなるであろうし、集積を高め、それをネットワーク化していくことにより、質の高いサービスの提供と新たな価値の創造が生まれていくと。

また、域外からの稼ぐ力、これを向上させるということにもつながるだろうと思います。また、集積により相乗効果や企業活動の活性化等で税収をアップさせるという方向、そういったことも考えながら、そういったエリアをつくっていくことは必要であろうと思います。

さらには、地域包括ケア、今後取り組まなければならない課題に関しても、ある程度の集積というものは必要であろうというふうに思っております。

この集積につきましては、出雲市内でのことも当然必要ですけれども、島根県、鳥取県のあるこの山陰地方でいえば、中海・宍道湖・大山圏域での集積、この地域である程度の人口集積を図るということは、方向として間違いはないと思いますが、この圏域の連携について話し合う場というのは、中海・宍道湖・大山圏域市長会をおいてほかにはないかなというふうに思っておりますけれども、実際、この市長会のほうで圏域内での機能分担の話であったりとか、機能の再配置、そういったことが議題に上っているのでしょうか、あるいは、そもそもそういった話し合いができるのでしょうか。その点、お答えをいただきたいと思います。

長岡秀人市長

前段の話は別として、最後の中海・宍道湖・大山圏域の市長会の中において、この圏域全体での役割分担とか、そういう話をしているかどうかというお話でございますが、我々市長会の中では、やはりこの圏域が、それぞれが独自に全てのものを整備していくという方向ではなくて、圏域全体として少し大きなものを、それぞれ拠点的に整備して、役割分担というのをしっかりとしていこうと、それを、先ほどの話でいくと、多極的なネットワーク、それぞれの拠点、大きな拠点の中での、またネットワーク化というのを意識しながら、今後の圏域全体のまちづくりのことも同時に考えていまいしょうという話し合いはしているところでございます。

具体の中身、なかなか結論というのは難しい、考え方としては、そういう考え方を常がね話し合っているところであります。

これは、市の中で四つの拠点、大きな拠点を設けるということで、役割分担をしていくという話と同じように、先ほど市長がお答えになりましたように、圏域の中でも役割分担をして、集積を図っていく、多極ネットワークという形になると思いますけれども、であるならば、出雲市としては、こういった役割を担っていくのかということが、やはり明確になっていかないと、なかなか話に乗っていけないんじゃないかなという気もしております。

出雲市は、こういった役割で、役割という言い方は変ですが、こういった機能を持ってこういった特徴を持ってこの圏域の中で進んでいくのかということが、市として議論を十分にして、それをまた圏域の中に持っていくということの段取りが必要だというふうに思います。

そういった話し合い、議論というものが、今のところ市の中で議論が薄いのではないかなという気がしております。ぜひ、その辺を十分に議論を進めていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、具体的な質問のところのお答えについて、再質問をさせていただきたいと思いますが、先ほど官と民の協働という形で、PFIというものを一つの大きな候補の一つ、有効な手段というふうにお答えをいただきました。今後、公と民間が連携して、公共サービスの提供を行う取り組みというのは、本当に今後、ますます拡大していくと思っております。

その手法の中の一つの指定管理者制度というのは、もう既に出雲市でも導入をされています。そのほかには、先ほども出ましたPFI、それから市場化テスト、公設民営方式、包括的民間委託、また自治体業務のアウトソーシングも、また含まれるのかなというふうに思いますし、さらには民設公営という手法も十分に検討しないといけないと思います。あらゆる手法を検討する必要があります、そして単に一つの施設だけでなくて周辺も、先ほど市長も言われましたけれども、周辺も考慮に入れた検討というのは、必ずしなければならないと。そのうえで、どのケースでどのような手法が有効なのかということを判断する。そんな流れが今後ますます重要になってくると思います。

例えばということで、一番近くなので、この周辺でお話をしますと、旧庁舎跡、ここから出雲体育館の国道9号線を横軸、出雲体育館跡地になるならということですが、この間には、もちろんこの市役所、それからNTTビル、そしてまたパラオ跡地といいますか、それから今市小学校、サン・アビリティーズいずも、そして北部庁舎などなど含まれておりまして、やはりこれは面で捉えないといけない横軸だというふうに思っております。

さらには、中央病院からJR出雲市駅、さらには医大の病院という縦軸、この南北の縦軸、横軸と縦軸をしっかりとエリアとして捉えて、じゃあ、そこに何を配置していくのかということを考えていかないといけない。

そういったときに、先ほど市長もそういった方向でというふうに言われましたですけれども、民間の土地や建物までの活用を含める発想というのが必要であろうと。PFIや場合によっては民設公営など、そういった手法もとらないといけない、行政とは異なる視点、異なる発想からやっていかないといけないというふうに思います。

先ほど、新たな組織を設けるのではなく、その都度その部局が連携をする形で進めていくというふうにお話になったんですけれども、こういったことを考えていきますと、どちらかというと、タウンマネジメントといいますか、タウンプロデュースというか、エリアマネジメントといいますか、そういったことをしていく人がいないといけない。プロデューサーであったりマネージャーという形になります。もちろん、それは市長がそれになるべきだというふうに思いますが、具体的に実務をするときに、誰かがそういった役割をしないといけないと思います。

PFIということで、この秋、千葉市のほうに視察に行った際に、かなり専門的な知識を持った方が担当なさっていて、ほんと専門家集団みたいな形で、ある程度の人数がそろっていて、それでPFIを行っているというふうなお話でございました。

例えば、今の時点でお答えがどうかというふうに思いますけれども、今後いろいろなことを進めていく、公共施設のことを進めていくときに、実務は今の組織の中でいえば、どこの部局になるのかということを教えていただきたいんですけれども、行政改革部長でしょうか、総合政策部長でしょうか、都市建設部長でしょうか、都市計画調整監でしょうか、どういうふうに考えたらよろしいのでしょうか。

長岡秀人市長

恐らく、それぞれ具体の事柄は別に、主となる部局というのは、変わってくるんじゃないかと思っております。総合政策部であったり、行革のほうであったり、それぞれの具体の施設整理等の目的によっては、違ってくるのではないかというのが現在の考え方でございます。

湯浅啓史君

目的別というのは、非常によく分かりますが、非常に専門的な知識も要するであろうし、ある程度の専門家集団みたいな方々がいないと、なかなか着手できないという事案が予想される

と思いますので、その点も柔軟に、またお考えをいただけたらというふうに思います。よろしくお願いいたします。

続いては、体育館の話です。本当に出雲体育館、身近にありますから、よく声を聞くんですけれども、ご存じのとおり地下部分は、もう既に閉鎖をされました。雨漏りもかなり出てきておって、本当に建て替えないという時期になっています。耐震化どころか補修もしないということであれば、ここ数年で着手しないといけないというふうに思っておるんですけども、先ほど審議会にも諮問して検討していくということですが、いつごろ答えが出るものになるのでしょうか。

曾田市民文化部長

スポーツ振興審議会のほうは、初日全協のほうでもお話しましたように、今年度末、3月にはスポーツ分野としての考え方、スポーツ分野というのは、フロアがどのくらいな広さがあって、どういう種目が使えるか。

もう一つ、答弁の中でありましたように、庁内検討会というのを設けていると。今既に検討を始めているんですけど、今の体育館は、防災補装具の機能があったり、選挙機材があったり、またボランティアセンターの機能があったり、それから展示会にも使用されていたりとか、また子どもの健診の関係とか、いろいろな関係、幅広く利用が求められる部分がありますんで、市のいろいろな部署の部分とスポーツの専門分野との意見をまとめて、新年度には最終的にどの大きさの規模がいいのかとか、どの位置がいいのか、いろいろなことが出てくると思いますし、それについての新たな両方の意見を持ち寄って展開に持っていきたいと思ってます。

以上です。

湯浅啓史君

ありがとうございます。今年度中ということなんで、時間がないかなというふうに思いますけれども、本当にこれはうわさ話であってほしいなということを今から言いますけれども、よく聞かれます。「体育館どこへ建つんですか」ということ。「私も分からないんですけどね」というふうに言いますと、「平田体育館と出雲体育館のちょうど中間地点に何か新しいのが建つんじゃないの」というようなことを、「うわさが出てるよ」というようなことを聞きます。本当にうわさ話であってほしいなと思います。

例えば、根拠がそういったことであるならば、本当にそれは情けない話だなという、中間地点に建てましょうという。ではなくて、今回の体育館建設というのは、先ほども前段のほうで質問をさせてもらった今後のまちのあり方というものにかかわる非常に重要な事案だと私は思っ

ています。右肩下がりという予測の中で出された統合という結論、それに沿って建てられる初めての案件だというふうに捉えています。ですから、そこには十分な話し合いというものが必要であって、コンパクトシティであったりまちの集約化であったり、複合施設、多機能施設、また民と官との協働、そういった今後の方針というものが盛り込まれるべき事案だというふうに思っています。単に体育館という捉え方ではちょっとまずいなというふうに思っておりまして、そういったことの意味合いから、検討過程の透明性も含めて、誰もが納得できる方法で決定しなければならないというふうに考えています。

私なりに体育館の建設の検討項目ということを上げるなら次のようになります。

例えば、市内で最低でも便利にできる場所にある必要があると思います。やはり、距離的中心というものは考慮する必要があるが当然出てくるというふうに思っております。また、公共交通機関との連動、アクセスはというものは必須というふうに考えています。

また、先ほども言われましたけども、単機能ではないと思いますが、単機能ではなく多くの機能を持った公共施設であることが望まれるというふうに思います。

また、PFI等の手法を取り入れる必要、そういった検討も必要だろうと思います。また、周辺の公共施設との連動というものを、当然考えないといけないというふうに思います。

例えば、出雲体育館では、あの場所だったら今市小学校、サン・アビリティーズいずも、そして出雲体育館という連動があったわけです。平田体育館であれば、同じように平田小学校との連動があったわけです。そういった周辺の公共施設との連動というものも十分に考慮に入れないといけない。さらには、民間との相乗効果というものも、当然考慮のうちに入らないとまずいと思います。

というのは、宿泊施設であったりとか、飲食店、周辺の経済が回っていくと、そういったことも十分に考えた施設であるべきだというふうに私は思っております。

あえて言うならば固定資産税、法人税に結びつく方向で進めていく、ひいては持続可能な都市運営に資するものでなければならないというような、私なりの考えは持っております。

先ほど、この短時間の中で、年度末には方針を出すということでありましたけれども、先ほど言いましたような内容というのは、検討の項目の中に入るのでしょうか。お願いします。

曾田市民文化部長

市民文化部長(曾田俊彦君) 先ほど、一つ誤解されていることがあると思うんですけど、スポーツ振興審議会における考え方については、今年度末にまとめると。スポーツ振興審議会は、スポーツ面の視点において、どういうのが市として必要なのか、また、さっきちらつと言わ

れたんですけど、ほかの例えば、ドームとか県立体育館との連携した活用とか、そういういろいろな視点の中でスポーツ面としては、どういう考え方が欲しいと。というのを今年度末にまとめていただいて、それから、もう一つが、さっきお話しした市がいろいろなもので必要な機能、防災であったり、さっきのボランティアセンターであったりというふうなものについては、市のほうで大体それを目標に、事務レベルではまとめていって、新年度に先ほど話したように、今度は地域とかいろいろな形で、じゃあ、どこにどの規模のというのの検討に入っていくという説明でしたので、ちょっと今のは、修正してください。

湯浅啓史

失礼しました。ちょっと答弁のことを、誤解をしたようですけども、平成28年度(2016)にそういった検討に入るとのことだと。

いずれにしろ、ちょっと急ぐ話であり、また、先ほど申しあげたようないろいろな要素を検討していく必要があると思います。

繰り返すようですけれども、その検討過程というのを、透明にしていきたいというふうに思います。これは、決して我田引水の話をしていると私は思っておりません。今あるところにもう一回建ててくれという話を、私はしているわけではなくて、いろいろな将来課題というものを考慮したうえで検討してくださいということを言っております。

再三申しあげますけれども、出雲体育館と平田体育館の統合は、単に一つの公共施設を建設するということにとどまらないと思います。今後の出雲市のまちの姿、そしてその方向性を示す最初の事例になるというふうに思っております。

冒頭申しあげましたとおり、今後の右肩下がりという状況に、どう対応していくかということが鍵になるというふうに思っております。右肩下がりという厳しい予測の中で、持続可能な都市運営を進めなければならないというのは、皆さんも頭の中では十分ご承知だというふうに思いますが、ひょっとしたら右肩上がりのときのやり方をそのまま踏襲をなさってはいませんか、改めて問い直していただきたいというふうに思います。

決して寂しい話を私はしているつもりはありません。今後に対応する新しいやり方、新しい考え方を、ぜひ皆さんの力で構築をして今後の出雲市に生かしていただきたいということを申しあげたいと思います。

以上で、私の質問を終わります。